



TITLE:

インドにおける牛乳・乳製品のフードシステムとソーシャル・ビジネス—社会的課題の解決と事業成長の両立を図る酪農業協同組合AMUL(Digest_要約)

AUTHOR(S):

下門, 直人

CITATION:

下門, 直人. インドにおける牛乳・乳製品のフードシステムとソーシャル・ビジネス—社会的課題の解決と事業成長の両立を図る酪農業協同組合AMUL. 京都大学, 2020, 博士(経済学)

ISSUE DATE:

2020-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k22221>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開; 許諾条件により要旨は2020-04-01に公開

論文要旨

論文題目：インドにおける牛乳・乳製品のフードシステムとソーシャル・ビジネス
——社会的課題の解決と事業成長の両立を図る酪農業協同組合 AMUL

下門 直人

本論文の研究目的は次の2つである。一つは、途上国・新興国において社会的課題とされる貧困削減や持続可能な発展を実現しうるビジネスとはいかなるビジネスか、ということをもインドの牛乳・乳製品の生産と流通を事例とする実証研究を通じて明らかにすることである。もう一つは、協同組合がそうしたビジネスの主体となることの意義を明らかにすることである。

途上国や新興国における農業問題は貧困問題の主要な要因とされ、それゆえ農業問題の解決は農民の貧困削減や農村の持続可能な発展を促す一つの契機となる。したがって、本研究では途上国・新興国の一つであるインドの農業問題、とりわけ酪農業とその解決主体となりえる酪農業協同組合を対象として分析をおこなう。

本研究の主要な研究課題は次の4つである。第一の研究課題は、酪農業協同組合の組織化を図ることで農民の貧困削減に貢献した酪農開発政策の終了後、酪農業協同組合間の運営実態に大きな格差が生じている理由を明らかにすることである（第2章の課題）。第二の研究課題は、農村及び生産局面に焦点を当て、農業問題の生産過程上の課題、すなわち生産性の改善による農業所得の向上、そして農民の能力開発を通じた農村の持続可能な発展を実現しうるビジネスとはいかなるビジネスか、ということをも主体の相違を踏まえて明らかにすることである（第3章の課題）。第三の研究課題は、市場及び流通局面に焦点を当て、農業問題の流通過程上の課題、すなわち農産物価格や市場アクセスの課題はいかなる流通イノベーションによって解決されるのかということをも明らかにすることである（第4章の課題）。第四の研究課題は、流通イノベーションと農民の貧困削減や農村の発展との関係を明らかにすることである（第4章の課題）。以上の課題を明らかにするために、本論文は4つの章から構成される。

序章では、研究背景を述べている。

第1章では、先行研究の整理を通じて本研究の課題ならびに分析枠組みを設定した。

第2章では、インドにおける農業問題に対する農業政策及び開発政策の歴史について整理したうえで、酪農業を対象としたオペレーション・フラッド計画の意義についてマクロ・フードシステムの視角から整理しなおした。第2章の結論として、オペレーション・フラッド計画以後に酪農業協同組合間の格差を生み出した背景には、牛乳・乳製品の市場や流通環境の変化に対応した販売問題への対処が実施されてきたか否かが要因としてあげられることを明らかにした。

第3章では、酪農業協同組合 AMUL を対象とし、AMUL の農村における事業を示すことを通じてそのソーシャル・ビジネスとしての性格を有するビジネスの実態を明らかにした。具体的には、生産者に対して安定的な所得獲得機会の提供や所得向上を図るための集荷・買取システムを構築し、生産者への利益還元を高める経営をおこなっていることを明らかにした。また生産性向上を図るための購買事業や能力開発、人工授精、獣医サービスなどの支援策を提供することを通じて生産者の所得向上や農村の発展にも貢献していることを明らかにした。またそれに加え、多国籍企業と現地の民間乳業メーカーとの生乳の買取価格や粗利益率及び営業利益率の比較を通じて、それらの企業と比較して協同組合組織である AMUL が最も効果的に生産者に対して利益還元をおこなっていることも示した。

第4章では、第3章で示したソーシャル・ビジネスとしての性質をもつ AMUL の農村での事業は、GCMMF が中心となり引き起こしてきた流通イノベーションによって支えられていることを明らかにした。その流通イノベーションの内容とは、零細・小規模な生産者を前提としながらも時代とともに変化する消費のあり方や流通環境に対して常に適合的な流通組織を築いてきたこと、すなわち協同組合の連合会組織という形態をとる AMUL モデルを進化させてきたことである。そして最後に、第3章及び第4章を踏まえ、AMUL の流通面における優位性と農村での事業との関係についてマイクロ・フードシステムの視角から明らかにした。

終章では、各章の課題と結論の要約、本研究を通じて示した理論的インプリケーション、本研究の課題について論じている。